

日本臨床検査医学会 平成 24 年度 第 3 回理事会（理事総会） 議事録

日 時：平成 24 年 8 月 26 日（日）12：00～16：20

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：村田 満理事長，安東由喜雄副理事長，矢富裕総務理事、前川真人会計理事，
宮地勇人，米山彰子，村上正巳（兼 臨床検査自動化学会連絡委員）， \sphericalangle 谷直人（兼 同学院連絡委員），
北島勲，佐守友博（兼 臨床検査専門医会連絡委員），尾崎由基男，藤田清貴，横田浩充，
野島孝之，渡邊直樹，本田孝行，田窪孝行，杉浦哲朗，康 東天 各理事
一山智，高木 康（兼 JCCLS 連絡委員）各監事（以上 23 名）
陪席：田中美智男 第 59 回学術集會事務局長（1 名）

欠席者：賀来満夫，和田隆志 各理事（2 名）

会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、米山彰子 理事、田窪孝行 理事を 議事録署名人に定めて理事総会の議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の平成 24 年度、平成 25 年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、東海・北陸支部の幹事交代について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（藤田清貴 担当理事）

会員から募集していた平成 24・25 年度の学術推進プロジェクト研究課題は 7 月末日で締切り 13 題の応募があった。現在、委員により、研究計画の独創性・先進性(5 点)、研究計画の実効性・妥当性(5 点)、臨床検査医学・医療における発展性・将来性(5 点) の合計(15 点)の基準で審査を実施しており、9 月 5 日にそれを基に採択課題を決定する予定であることが報告された。

2) 編集委員会（宮地勇人 担当理事、村上正巳 委員長）

トピックス企画、特別総説依頼、共著者の把握のため投稿時のチェックリストの見直し、論文区分英文名称及び電子版英文名称の検討、学術推進プロジェクト研究の成果報告の査読体制、国際標準化に伴う「HbA1c」標記に関して投稿規程に追加記載することが報告された。

3) 教育委員会（北島 勲 担当理事）

京都での第 59 回学術集會時に教育委員会企画で、日本医学会、日本医師会「平成 24 年度医学生、研修医等をサポートするための会」助成事業であり、研修医、学生の支援が主旨である「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」についてメール会議を行い、12 月 1 日(土)18:00～20:00 に京都国際会議場 Room C2 で「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」(仮題)を実施することが報告され、女性医師、若手医師、学生の参加の協力依頼がなされた。

4) 標準化委員会（前川真人 担当理事、康 東天 理事）

本年度、当委員会での主な活動目的は、検査目的に適合した検体の質を確保するための検体保存評価法の検討であり、実際には、複数施設（委員の所属する 10 施設）で、一般化学検査項目、蛋白検査項目、酵素検査項目、脂質検査項目、感染症抗原抗体検査項目、自己抗体検査項目、腫瘍マーカー検査項目、ホルモン検査項目、尿検査項目、血液検査項目の中から、それぞれ代表的な検査項目を選択し対象検査項目として調査を行い、第 59 回学術集會で一般演題として報告し、臨床病理誌に投稿予定であることが報告された。

また、康理事より、7 月 29 日に開催された第 6 回合同基準範囲共用化 WG での、基準範囲策定データ再処理の確認、今後の作業について、報告された。

5) 精度管理委員会（ \sphericalangle 谷直人 担当理事、前川真人 委員長）

2012 年度 CAP サーベイは、105 施設(前年度+15 施設)の参加申込があり、サーベイ試料の発送を 5 月から開始したこと、「国際臨床検査成績評価プログラム」に「遺伝子関連検査項目」の新規項目を導入したこと、参加施設の顧客満足度調査のアンケートを行ったことが報告された。

6) ガイドライン作成委員会（北島 勲 担当理事）

臨床検査のガイドライン JSLM2012 の進捗状況、8 月上旬までに 79 項目中 75 項目が入稿完了していることが報告さ

れ、11月末のガイドライン完成までの予定が示された。

7) 専門医・管理医委員会（北島 勲 担当理事）

学術集会時に開催される教育委員会企画「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」に協力すること、専門医、管理医数の増加や認知度を高める方法を検討する予定であることが報告された。

8) 遺伝子委員会（横田浩充 担当理事、宮地勇人 委員長）

PGx検査の運用指針第3回改訂版を作成したこと、そして、それが日本人類遺伝学会、JCCLS、当学会の3団体で承認されたため同時にHPで公開したこと、先進医療に係る実施上の留意事項や届出等の取扱いを見直したこと、平成24年10月1日より適用すること、先進医療通知及び高度医療通知は平成24年9月30日で廃止すること、先進医療の対象となる医療技術の分類に関することが報告された。

9) 医療安全委員会（〆谷直人 担当理事）

第59回学術集会で、「臨床検査における患者誤認対策」というテーマで医療安全に関するシンポジウムを開催することが報告され、テーマは、「臨床検査における患者誤認防止対策」と訂正することとなった。

本講演での非会員（4名の内2名）の講演者への旅費、謝礼の支給について、委員会から要望があり、学会本部が学術集会のいずれが負担するか検討課題となった。

10) EBLM 委員会（村上正巳 担当理事）

5月20日に第1回委員会を開催して、平成24～25年度活動方針、EBLM教科書出版事業で今年度の出版を目標に執筆内容の確定、担当割り当てを行ったこと、第59回学術集会でのEBLM講習会の参加募集を学術集会HP、学会臨床病理誌に掲載することが報告された。

11) 東日本大震災対策委員会（〆谷直人 担当理事）

東日本大震災における臨床検査支援活動・記録と提案・記録集が完成したこと、そして、評議員、関連団体、関係機関、公官庁関係に約900部を配布したことが報告された。

この記録と提言をweb版として掲載して、会員のみが閲覧することを計画していたが、他学会より閲覧したいという希望があったことが報告され、会員に限定しないで一般に公開する提案があり、承認された。

3. 第59回日本臨床検査医学会学術集会報告（一山 智 会長）

平成24年11月29日（木）～12月2日（日）に、国立京都国際会館で開催予定の第59回学術集会の学術企画の招聘講演、特別講演、教育講演、各シンポジウム、合同企画の共催シンポジウム、実習セミナー等の内容、プログラムが示され、一般演題446題（口演397題、ポスター49題）となり、準備が順調に進んでいること、また、同時に開催する第12回ASCPaLM会議について、そして、臨薬協主催の「臨床検査機器・試薬 総合展示会2012 京都大会」（参加企業30社）が学術集会中開催されることが報告された。

共催シンポジウムでの謝礼について協議され、何れかの学会の会員であれば支給はしないこと、支給する場合は、基準、上限等を学会として決めておくことが必要ではないかとなった。

4. 第60回日本臨床検査医学会学術集会報告（矢富 裕 会長）

平成25年10月31日（木）～11月3日（日）に神戸国際会議場・展示場において開催予定であり、第59回学術集会の際に、プログラム委員会を行う予定であること、運営会社は、話の進んでいたコンベンションアカデミアに依頼すること等が報告された。

5. 第61回日本臨床検査医学会学術集会報告（康 東天 会長）

平成26年11月23日（日）～11/26（水）に福岡国際会議場において開催予定であることが報告された。康会長から、展示開催があるかないかで予算が変わってくるため状況について質問があり、平成25年の第60回学術集会では展示会場も確保して開催する予定であるが、それ以降は、まだ確定していない状況であることが返答された。

6. 関連団体報告

1) 日本臨床検査同学院（〆谷直人 理事、水口國雄 同学院 理事長欠席のため）

平成24年度、各種認定試験、緒方富雄賞授賞式及び公開講演会、部会活動（実技講習会）通信発行状況、関連団体との会合等について報告された。

2) 日本臨床検査専門医会 (佐守友博 専門医会 会長)

平成 24・25 年度役員体制、第 1、2 回全国幹事会、第 1 回常任幹事会と今後の予定、平成 24 年度の教育セミナー、平成 24 年度春季大会(山口：日野田裕治会長)、生涯教育講演会、振興会セミナー、第 59 回日本臨床検査医学会学術集会時の総会及び講演会について報告された。

3) 日本臨床検査標準協議会 (高木 康 JCCLS 会長)

平成 23 年度活動報告として、会員の移動、総会及び理事会開催について、平成 24 年度活動計画として、学術集会予定、JCCLS 公的資格強化策としての ISO/IEC17025 及び ISO ガイド 34 に基づく認定取得、会誌発行予定、各種委員会活動内容、CLSI 文書翻訳本の発行等について報告された。

4) 日本臨床検査自動化学会 (村上正巳 理事 磯部和正 連絡委員欠席のため)

平成 25 年度の事業予定として、会議、大会・春季セミナーの開催、委員会活動、刊行物発行の予定等について報告された。

7. 平成 24 年度臨床検査専門医認定試験結果について (村田 満 臨床検査専門医・管理医審議会委員長)

平成 24 年 8 月 4～5 日 (土日) に兵庫医科大学病院で実施された。初回受験者 15 名、再試験受験者 7 名、再々試験受験者 1 名、専門医更新 5 年以上の保留者の臨床検査医学総論のみ 1 名、合計 24 名が受験し、初回受験者 15 名中 10 名が合格、5 名が再試験資格を得て、3 科目以上の不合格者はいなかった。再試験受験者 7 名中 5 名が合格、1 名が再々試験の資格保持者となったことが報告された。

8. 臨床検査審議会報告 (村田 満 臨床検査専門医・管理医審議会委員長)

1) 臨床検査管理医認定試験受験資格審査について (土屋達行 受験・更新審査委員長)

平成 24 年度の臨床検査管理医認定試験の受験希望者 24 名について、受験資格審査を行い全員有資格 と判定されたことが報告された。

2) 研修施設・指導者認定委員会報告 (村上正巳 研修施設・指導者認定委員長)

2012 年 1 月 1 日付の再任の際に、問題のあった 3 施設について、その後の報告があった。

がん・感染症センター都立駒込病院は、教育責任者、担当者に会員歴 5 年以上の医師が不在のため、検討を依頼した。その結果、前教育責任者の医師が非常勤で勤務しているため、その先生を担当者として申請し直し、教育関連特殊施設として認定できる予定だが申請書の提出がまだない状態と報告された。国立国際医療研究センターと香川医科大学医学部附属病院は、前の教育責任者が異動のため、当会会員で在勤の専門医に申請の検討を、本委員会村上委員長から依頼したことが報告された。

9. 本学会からの関連団体委員推薦について (村田 満 理事長)

4 月 1 日以降に関連団体に下記の通りの派遣委員を推薦したことが報告された。

1) 6/12 医療関連サービス振興会 サービスマーク調査指導員、北陸地区 1 名の吉田治義先生辞退されたため、木村秀樹先生を推薦。

2) 6/14JAB 臨床検査室認定委員会委員として、濱崎直孝先生に代わり矢富裕先生を推薦。

3) 6/1 日本臨床化学会 酵素・試薬専門委員会「アルカリホスファターゼ (ALP) 酵素活性測定法についてのプロジェクト」へご参加で、当学会の立場より尾崎由基男先生を推薦。

4) 6/30 臨床検査振興協議会

①医療政策委員会

WG-A (リーダー：渡辺清明先生、検体検査の臨床的価値とコスト) に米山彰子先生、東條尚子先生を推薦。

WG-B (リーダー：宮澤幸久先生、検体検査の診療報酬の仕組み) に木村聡先生を推薦。

WG-C (リーダー：寺本哲也氏、検体検査の性能と診療報酬への反映) に村上正巳先生を推薦。

WG-D (リーダー：登 勉先生、コンパニオン診断薬の審査・承認体制の整備) に宮地勇人先生を推薦。

②定款改訂検討委員会に村田満先生を推薦。

③広報委員会委員：小柴賢洋先生、木村聡先生 (当学会の広報委員長と委員) を推薦。

5) 6/28 日本臨床衛生検査技師会「未来構想策定に関する委員会」委員として村田満先生、委員代理として安東由喜雄先生を推薦。

6) 7/25 外保連からのコーディング WG 委員として、康東天先生 (検査項目コード委員長) を推薦。

7) 8/9 臨床検査技師国家試験の出題基準の作成委員会委員として本田孝行先生を推薦。

10. 専門医制評価・認定機構/厚労省と基本領域 18 学会との意見交換報告 (7/19) (村田 満 委員長)

7 月 19 日に機構において、厚労省医政局医事課長、機構理事長、学会理事長の 3 者での意見交換会があったが、

厚労省医政局医事課長からのこれからの専門医制度に関する説明が中心であった。今後は、すべての専門医の認定、更新等を中立的立場の第三者機関を設置して、ここが中心となって実施していく予定で国民に分かり易くしていくとのこと、更に専門医認定養成プログラムの評価、認定機能を担う、養成カリキュラムを作成することも案としてあること、そして、地域医療を充実させる観点から、地域偏在を是正し専門医を配分したい、その為の学会の専門医養成プログラムに盛り込むことも考えてほしいとのことであった。最短で平成26年度の卒業生から後期研修医にこのプログラムをあてはめて実施したいとし、基本領域学会の専門医は何れかひとつを選ぶことを考えていることが報告された。ただ、各専門医により特色があるため、このような改革をすることは相当難しいと思われるとのことであった。また、専門医の広告の外形基準について、大きく見直しがなされる可能性があり、医師が8割以上という条件が緩和される可能性があることが報告された。

11. 専門医制評価・認定機構 研修施設訪問調査説明会(基本領域)報告(8/20) (村上正巳 委員長)

8月20日に標記説明会があり、日本専門医制評価・認定機構でのサイトビジットの平成23年度実績について、当会としては、慶應義塾大学病院、東京大学医学部附属病院、関西医科大学枚方病院の訪問調査が行われたことが報告された。そして、平成24年度の実施予定研修施設の訪問施設については、当会、日本病理学会等は、他の学会とは異なり特殊であるため、他の学会と同じ基準での訪問調査が難しいようであり、専攻医もない場合が多い、そのため、今年の機構からの訪問調査施設数の指定としては若干数であり、可能な施設数でよいということであった。また、調査対象専門医制度の研修施設認定の基本方針と具体的基準および専門医認定との関連について把握するため、施設訪問調査における施設評価手引きの調査依頼があった。手引きについて、村上正巳先生が案を作成し、審議会委員が確認することに、また、訪問調査施設についても村上先生が当会研修施設で研修登録医がいる施設から選定することとなった。

12. 宇宙堂八木書店からの掲載内容の誤りの経緯と再発防止策について(村田 満 理事長)

臨床病理2、3月号の名簿、臨床検査専門医試験要領で間違いがある掲載をしたことについて、宇宙堂八木書店よりその経緯と再発防止策の文書が報告された。

13. その他

特になし。

II 審議事項

1. 第58回学術集会収支決算報告について(岡山2011/11/17(木)~20(日))(前川真人 会計理事)

当学会会計顧問である蛤谷会計事務所で、第58回学術集会事務局からの各請求書、領収証、その他の資料等を確認し、会計ソフトに入力したうえでまとめた収支報告書が報告され承認された。7月2日に学会本部に収支差額の、9,766,294円が返金されたが、共催展示会分配金の不足分600万円は特別会計から支出しているため、検討され特別会計に戻すこととなった。

2. 各種委員会委員長、委員について(村田 満 理事長)

1) 利益相反委員会・検査項目コード委員会・コンプライアンス委員会(仮)

・利益相反委員会(村上正巳 担当理事)

宮哲正先生(㈱保健科学研究所)、宮島栄治先生(横浜市大)が委員就任を辞退したこと、佐守友博先生(日本医学臨床検査研究所)、横田浩充先生(東大)を新委員、近藤義彦氏(臨薬協)をオブザーバー委員とすることが提案され承認された。

・検査項目コード委員会(佐守友博 担当理事)

安藤純一氏、小須田幸氏(㈱エスアールエル)、清水一範先生(放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院)堀田多恵子先生(九州大)の4名は標準マスター協議会のWGに当学会の委員として参加しているため、本委員会委員とすることが提案され承認された。なお、非会員は会員登録する予定であると報告された。

・コンプライアンス委員会(仮)(村上正巳 担当理事)

第1回臨時理事会(5/20)で設置が検討され第2回臨時理事会(7/8)で設置と委員長を山田俊幸先生(自治医大)とすることが決定していた法務委員会について、委員会の名称はコンプライアンス委員会として、女性委員と外部委員を含めて、委員長:山田俊幸先生(自治医大)、委員:土屋達行先生(日大)、戸塚実先生(東京医歯大)、米山彰子先生(虎の門病院)、古川俊治先生(顧問弁護士)が提案され承認された。

2) チーム医療 WG (米山彰子 担当理事)

チーム医療 WG については、昨年 12 月の理事会で設置、第 2 回理事会 (3/31) で委員長を諏訪部章先生 (岩手医大) に依頼することが決定していたが、目的として、実際にチーム医療の活動をするのではなく、臨床検査に関わる医療従事者がどのようにチーム医療に関わって行くべきかを議論し一定の提案をすることとして、各方面から委員を選出して、木村聡先生 (昭和大)、通山薫先生 (川崎医大)、康東天先生 (九州大)、横田浩充先生 (東京大)、上道文昭先生 (東京医大)、福田篤久先生 (大阪府立泉州救命救急センター)、三村邦裕先生 (千葉科学大)、藤巻慎一先生 (天理医療大) が委員として提案され承認された。

3) 渉外委員会「日臨技との協調 WG (仮)」(村田 満 理事長)

第 2 回臨時理事会 (7/8) において設置することが承認されていた当 WG について、当学会と日臨技で協調して出来る事を可能性のあることから検討することを目的として、渉外委員会のもと、本田孝行先生 (信州大) を委員長として活動することが承認された。

3. 平成 24 年度学会賞受賞候補者、規定の一部改定について (矢富 裕 担当理事)

平成 24 年度の学会賞について、学会賞委員により事前審査を行ったうえ、7 月 26 日に当委員会を開催し、学術賞：下澤達雄氏 (東京大)、生命科学賞：角野博之氏 (群馬大)、優秀賞：内海健氏 (九州大)、検査・技術賞：長田誠氏 (山梨大)、奨励賞：南部裕子氏 (金沢大)、編集委員会で選定された優秀論文賞：中山亜紀氏 (文京学院大学) 及び今井正氏 (香川県立保健医療大学) が学会賞受賞候補として選定した報告があり承認された。Bergmeyer-Kawai 賞については、現在の賞の性格に合致した応募対象者がなかったため該当者なしとなり、候補者の選出については理事会に一任されたが、該当者なしが妥当と判断された。

現在の学会賞は、当初の主旨から離れ、賞の性格、特徴がなくなり、応募対象会員数に対して賞の数が多くなっており、学会賞の内容について再検討すべきとなり、学会賞委員会に対案を出してもらうこととなった。

4. 会則改定委員会での定款の改定案について (米山彰子 担当理事、谷直人 委員長)

当学会の定款の理事長選出方法、理事の選出方法により選挙、支部、指名という 3 種類があること、理事長、副理事長、理事の任期が、一般社団法人法に合致しない部分、他の学会と大きく異なる部分があることが村田満理事長、役員登記を依頼した司法書士、選挙管理委員会等より指摘があった部分を検討した。

主な内容としては、理事長、副理事長の任期は 1 期 2 年とし再任は 1 回可とし、理事の任期は 1 期 2 年として現在の 4 年が維持できるようにすること、理事長は選挙で選ばれた理事による互選とすること、理事は原則として選挙での選出が望ましいが、当学会のこれまでの歴史、経緯があり支部理事、指名理事をどのように扱っていくのがよいのか、今後、顧問弁護士、司法書士も含めて委員会で再検討する予定であることが報告された。

5. 副理事長の選任方法について (村田 満 理事長)

今年末で、副理事長を退任する安東由喜雄先生の後任の選出方法について、現在の定款や細則に記載されていることは、選挙理事のなかから理事長が指名すること、年齢制限があること、任期は 4 年であり重任可能でその場合の任期は 2 年であることで、今回のような途中交代は想定されておらず、理事としての残任期間が何年でも選挙理事であれば副理事長を指名することが可能と読める。また今回は理事長と副理事長の就任時期が 1 年ずれることになるが、副理事長の任期が 4 年と定められていても、新しい理事長が就任した後も旧副理事長が残任していることは考えられないため、常識的には理事長残任期間内になると思う。一方、現在、定款、細則改定が進んでおり、理事の任期が 2 年となれば、現定款の 4 年任期は想定出来なくなる。

会則改定の日程から考えて、今回は現行の定款に基づいて選任することになるが、改定の進行状況によっては対応できるようにしたい考えであることが報告され、その方向で了承がなされた。

6. 学術集会での利益相反状態の開示について (村上正巳 担当理事、村田 満 理事長)

本議題は第 59 回学術集会報告の直後、学術集会事務局長の田中美智男先生が陪席している間に検討された。

今般、利益相反状態の開示は一般的に重要となっており、本年度の第 59 回学術集会の発表時から利益相反状態の開示を行うべきとなり、日本医学会 COI ガイドラインのこれに該当する部分と利益相反委員会での開示する検討案が報告され、開示の対象者、期間、金額の範囲等についても検討が必要という意見があったが、最終的には委員会での検討が依頼された。学術集会発表での利益相反状況の開示の会員、発表者への周知方法は、まず、学会本部から会員にメールで行い、次に学術集会事務局から発表者に対して依頼することとなった。

7. 臨床検査管理医講習、認定試験プログラムについて (2012/09/16) (矢富 裕 試験実行委員長)

平成 24 年 9 月 16 日 (日) 10:55~16:30 に第 4 回臨床検査管理医講習・認定試験が東京 (東京大学医学部附属病院) において実施される予定で、プログラムが報告され承認された。

8. IVD Global News 電子版導入について（メ谷直人 担当理事、前川真人 委員長）

現在、精度管理委員会が監修を行い季刊誌として発行して臨床病理誌送付の際に同封しているグローバルニュースについて、電子版で会員に公開する提案がなされ承認された。なお、会員には個々にパスワードを発行して管理する予定である。

9. 臨床検査振興協議会 Lab Tests Online への参加について（前川真人 理事：振興協議会 編集委員長）

臨床検査振興協議会で Lab Tests Online の日本版を、臨床検査の周知には大変有効であるとなり、掲載できるようにするため参加を検討していることが報告された。Lab Tests Online は一般の方に検査に関することが判り易く掲載されており、現在国内にはこれに匹敵するものはなく、加盟にはある程度の費用が必要であるが、臨葉協の協力が得られるのではないかとのことである。あとは、内容の翻訳が必要となるが、これについては当学会の評議員に協力を依頼したいと考えていることが報告され検討された。これに対して、内容がよく知られていないため、ホームページを閲覧してもらい、今後の理事会で継続審議していくこととなった。

10. 日本救急検査技師認定機構からの協力、支援依頼について（村田 満 理事長）

日本救急検査技師認定機構事務局代表の福田篤久先生（大阪府立泉州救命救急センター）から、検査室救急医療検査に精通した検査技師の育成を目指して、2012年5月19日に日本救急検査技師認定機構を設立し、救急検査技師認定制度を制定したため、当学会に当認定機構の支援団体となること、委員の派遣、テキスト原稿執筆、講習会講師等の支援依頼等があったことが報告され検討された。

本認定機構はどういう組織で母体は何か、臨床救急医学会、生物試料分析学会は協力団体となっているが、構成される委員会メンバーは関西に多く、偏りがあり提示された資料だけでは判断することが難しい、今後、認定が始まった場合、この資格、認定制度を維持していけるのかどうか心配である等の意見が出された。

同学院の緊急臨床検査士資格とは相違しており、できればこの資格を有していることを受験資格とする意向もあるとのことであり、現在、臨床検査技師の各認定制度協議会等で組織している認定検査技師機構があるが、そこに加入し他の資格と整合性のある認定制度にし、関連する団体のコンセンサスを果たうえて、同学院の緊急臨床検査士の上位となる一級緊急臨床検査士のような役割となるのが望ましいのではないかととなり、正式な委員派遣の前に、メ谷直人理事が、福田篤久先生と会い、この認定機構の内容確認をし、次回理事会（10/27）に報告をしてもらい、継続審議することとなった。

11. その他

理事会等日程（矢富 裕 総務理事）

次回の理事会日程について確認された。

平成24年度第4回理事会：10月27日（土）正午～

懇談事項

ホームページの充実について（村田 満 理事長）

現在の当学会のホームページはやや地味であり、掲載のないページ、更新のないページがあるため、広報委員会に依頼がなされた。これに対して広報担当理事の佐守友博先生から、近日中に臨床検査振興協議会の広報委員会を開催する予定があり、当学会、臨床検査専門医会、振興協議会と連動した掲載も検討していきたいとして、小柴賢洋委員長と検討すると返答された。

V 閉会の挨拶（安東由喜雄 副理事長）

安東由喜雄副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

米山 彰子 

田窪 孝行 